

7月中旬

三国山の お花畑を 歩こう!

このエリアのくわしい情報マップ
『旧三国街道・三国峠を歩こう!』を
合わせてお持ちください!!

みなかみ町観光協会 TEL:0278-62-0401

まんてん星の湯 TEL:0278-66-1126

その他、猿ヶ京三国温泉郷の宿泊施設にお問い合わせください。



三国権現～お花畑～三国山
登山道沿いに様々な植物を
楽しめるエリアです。
ゆっくり登って楽しもう！



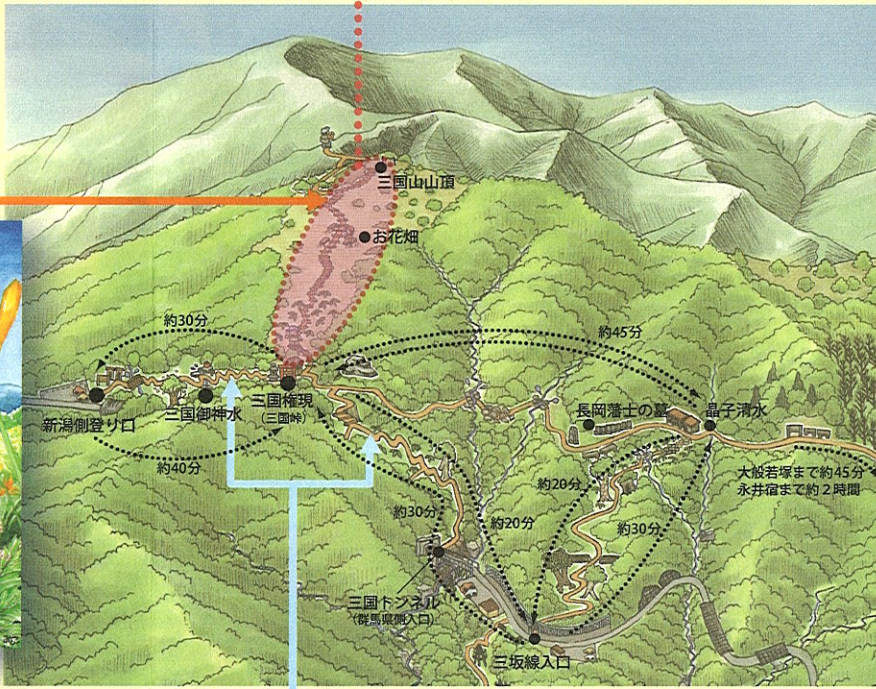
赤谷プロジェクト

三国山や三国峠のある森は、利根川の支流赤谷川の最上流部に位置することから『赤谷(あかや)の森』と呼ばれています。この森では、赤谷プロジェクト地域協議会、林野庁関東森林管理局、日本自然保護協会の3団体の協働によって、豊かな森を復元する森林管理“赤谷プロジェクト”が行われています。詳細は検索「赤谷プロジェクト」

イラストの風景はココから見られます！お花畑から三国山に登ると木道の階段になります。そこから振り返るとこの景色です。



イラスト：平田美紗子



ニッコウキスゲ(ユリ科)

三国山のお花畑を彩る主役がニッコウキスゲです。ゼンテイカとも呼ばれます。三国山では、例年7月中旬に見頃となります。朝方に開花すると夕方にはしぼんでしまう一日花で、1株に3～10個の花をつけて次々に咲きます。歩道脇のベンチに座って低い目線で楽しんだり、三国山山頂の少し手前から遠目に黄色い絨毯のような様子を眺めたりするのもオススメです！
冬の間3m以上積もる雪が、雪崩をおこしたり、解けて斜面を移動したりすることで、樹木が育ちにくい環境になります。さらに、比較的平らになったこの場所に雪からとけ出した水分が溜まりやすくなり、湿地のような環境になることによってニッコウキスゲの大群落がつくられています。

三国山で見つけたチシオシモツケ(血潮下野)

チシオシモツケはシモツケソウ(バラ科)のうち、葉脈が血潮のように赤くなるものです。三国山周辺で見つかったため、戊辰戦争でこの地に会津藩士の血が流れたことに由来する名前と言われています。三国山付近にはアルカリ性の基岩が分布しているため、広い意味での蛇紋岩植物と考えられます。



この花に名前を付けたのは、国立科学博物館名譽館員の奥山春季氏で、標本も残っています。しかし、名前は正式に発表されたものではなく図鑑にも種の記載はありません。奥山さんは自然愛好家のための植物観察会を積極的に行っており、その際に「チシオシモツケ」の名で解説していたため、今でも自然愛好家の中で使われ続けているようです。

三国山付近では、谷筋などの比較的湿った場所で普通に見られます。三国山以外でも谷川岳や利根川現流域の丹後山付近などで確認されていますが、はっきりした分布は調べられていません。(情報提供：阿部利夫)

ゼフィルスを観てみよう！

ゼフィルスと呼ばれるチョウをご存知でしょうか？小さなシジミチョウの仲間、樹上を好んで生息する森のチョウです。その中でもミドリシジミの仲間のオスの翅は美しく、キラキラと輝く青緑色はまるで宝石のようです。三国峠周辺では7月に成虫が見られ、オスは樹上に縄張りをつくります。縄張りに適した見晴らしの良い場所では、他のオスとの縄張り争いが繰り広げられ、キラキラと輝くチョウの乱舞となり、自然愛好家にとってこの時期に楽しみにしている光景の1つです。“ゼフ”とはギリシア神話の西風の神で、嫉妬深い男神であること、この縄張り争いの様子を重ねて名付けられたと言われています。
天気が良く風の弱い日、午前中か日没前頃に観察できることが多く、群馬側入り口と、新瀧側駐車場から三国峠へ登る途中の少し視界の開けた場所が観察ポイントです。少し足を止めて、樹の上にキラキラと輝くチョウが飛んでいないか探してみてください。もし、その姿を双眼鏡などで見ることができれば、その翅の輝きに驚くことは間違いありません！！



ジョウザンミドリシジミ